

令和7年度の中学校社会科研究の総括

—令和8年度県大会(美濃地区)に向けた合意形成モデルの構築と運営改善—

岐阜県中学校社会科研究部会長

岐阜市立青山中学校長 平塚 剛

今年度、岐阜県中学校社会科研究会は、以下のような方向で歩んだ。

<令和7年度の岐中社の方針>

□3か年の目標

令和8年度の県大会(美濃地区)において、全国の社会科教育の指針となる研究(授業モデルと実践)を展開し、学会等で発表する。

□計画

- ・令和6年(1年次): 全国の動向を踏まえた授業モデルと実践の検討
- ・令和7年(2年次): 授業モデル(合意形成)と実践(事実認識・価値形成)の決定
- ・令和8年(3年次): 美濃地区大会での授業モデルと実践の提示・学会等での実践発表

□研究

◎公民的資質は認識と価値で構成されている。ただし、価値は個人の価値形成と集団での合意形成と捉える。そのため、社会科の指導は、①認識の獲得、②個人における価値形成、③集団における合意形成の順で行う。

・地理的分野は①②(場合により③)、歴史的分野は①②、公民的分野は①②③を位置付ける。

※令和9年度以降は、美濃大会の成果を踏まえ、認識と価値の統合等を検討する。

- ①認識獲得の授業: 時代、社会、地域に応じた題材開発、一斉から個別・協働に転換した実践
- ②個人の価値形成の授業: 授業モデルの精査と題材開発・実践
- ③集団の合意形成: 授業モデルの構築

□研究

◎公民的資質は認識と価値で構成されている。価値は個人の価値形成と集団での合意形成と捉える。そのため、社会科の指導は、①認識の獲得、②個人における価値形成、③集団における合意形成の順で行う。

・地理的分野は①②(場合により③)、歴史的分野は①②、公民的分野は①②③を位置付ける。

※令和9年度以降は、美濃大会の成果を踏まえ、認識と価値の統合等を検討する。

- ①認識獲得
 - ・時代、社会、地域に応じた題材開発、一斉と個別・協働による探究的な学びの実践
- ②個人の価値形成の授業
 - ・授業モデルの精査と題材開発・実践
- ③集団の合意形成
 - ・授業における授業モデルの構築

社会科においても、主体的に社会に参画する力を育成するために、実社会の諸課題に対して主体的に考え、他者を尊重しつつ多様な意見を共有して合意形成をすることが必要である。

□運営

○1 迅速かつ熟議で意思決定をする組織改善

- ・運営委員の削減
- ・会議出席者の精選
- ・資料改訂の分野対応(副主務・副分野長)
- ・研修校の授業研究への参加(副分野長)
- ・代議員会のオンライン開催

○2 岐阜大学の社会科教育との連携

- ・助言者: 須本良夫教授
- ・講話: 文科省 空 教科調査官

○3 岐中社の副教材の採択

- ・私たちが作成している安価で良質な副教材であることを啓発

○4 8/19 夏季ゼミの活性化

- ・最良の研修の機会と県大会地区の支援のために各支部が参加
- ・文科省調査官の講話、研究の方向、副教材ワークのデジタル活用でのテスト作成

○5 関係団体との協働

- ・7/28・29 北方領土問題を考える東海北陸中学生のつどい岐阜県大会(大垣市)

○6 全国中学校社会科研究部会への参加

- ・授業提供をした授業研究委員等

○7 先行・先進研究の調査

- ・社会科教育の発表会(全中社大阪大会)への参加
- ・令和8年度の発表に向けての社会科系教育学会等の視察

岐中社は、志は社会科教育の目標である「平和で民社的な国家・社会の形成者」の育成と高く掲げ、視野は広く全国の動向を見据え、県教育委員会とともに岐阜大学の社会科教育と連携し、新たな社会科教育の挑戦へと歩み出している。本誌は、本年度の岐中社の実践、そして成果と課題である。改めて、岐中社の活動にご支援、ご助言をいただいているみなさまに感謝申し上げる。岐中社の会員みなで、新たな社会科教育を創ろう。